

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1137 2014年12月号

第10回滑床山植生回復検討会を開催

10月21日、滑床山頂（通称三本杭）において、第10回滑床山植生回復検討会を開催しました。【詳細は2頁】



ミヤコザサが順調に拡がり繁茂し植生回復が進んでいる 【平成26年10月滑床山山頂（三本杭）】



平成19年4月の滑床山山頂（三本杭）

滑床山の順調な植生回復を確認

〈ふれあい推進センター〉



ンティア等の協力も頂きながら植生回復に取り組んでいます。

好天に恵まれた一〇月 二六名が参加し、第一〇回

二一日、滑床山頂（通称三本杭）において、関係機関及びボランティア団体等

滑床山植生回復検討会を開催しました。

この滑床山頂周辺は、愛媛県宇和島市、松野町、高知県四万十市

にまたがり、かつてはミヤコザサやオンツツジが群生していましたが、平成一二年頃からニホンジカの食害により裸地化したことから、平成一八年六月に当検討会を立ち上げ、ボラ

ンティア等の協力も頂きながら植生回復に取り組んでいます。

今回で一〇回目の節目となる検討会では、平成一九年三月にシカ防護ネットを設置して移植した「たるみ」及び「滑床山頂」のミヤコザサが順調に拡がり繁茂していることや、現地の枯れ木などを活用した簡易な土留め措置の効果が現れ、

リョウブやウリハダカエデなどの稚樹が順調に生育している状況などを確認しました。

当センターからは、「藤ヶ生越」周辺等のギャップ（ニホンジカ植生被害地）に、シカ防護ネットを追加設置すること、「山頂」や「た

るみ」及び「藤ヶ生越」のネット内は、植生が順調に回復しており、「これまで色々な提言を頂いた結果、植生回復事業として一定の成果が上がったことから、当検討会は今回で終了すること」を提案し了承

されました。

「滑床山頂付近」の回復状況



また、滑床山頂周辺でニホンジカによる剥皮被害などを調査している森林総研から、ネット柵外では継続的に食害が発生しており、ニホンジカの生息密度は依然として高く、天然林内の自然植生に大きな影響を及ぼしていることなどが報告されました。

出席者からは、シカ肉を食べて地元の資源を有効活用することが重要、ネット設置後のメンテナンスは、大変な作業であり、ボランティアによる協力も必要、シカは相当数の捕獲実績がありながら、増えているの

「たるみ」で植生の回復を確認

「滑床山頂付近」の回復状況

が現状であり、色々な方法による個体数調整が必要等、引き続き関係者が連携してシカ対策に取り組む必要性などについての意見が出されました。

当センターとしては、新たなギャップの発生に対応して、今後もネットを追加

設置する考えです。そのため、設置延長距離が益々増加し、ネット設置後のメンテナンスが大変な作業になることから、シカ防護ネットの保守点検等において、関係者やボランティア等の協力も得ながら植生回復に取り組み考えです。



十一月六日、四国森林管理局において「四国国有林野等所在市町村長連絡協議会」を開催しました。

本協議会は、地域社会と国有林野事業の連携強化を

図り、地域産業の振興、住民福祉の向上に寄与することを目的に開催しているものです。会議には管内七署

(所)の有志協議会の代表世話人である市町村長、浅

川局長をはじめとする局幹部、林野庁から黒川国有林野部長、今泉山村振興・緑化推進室長が出席し、協議

の議事進行により、今年度のテーマである「林業の成長産業化の実現(地域の所得と雇用を生む林業の創

造)」について、意見交換を行いました。代表世話人からは、次のような意見・提言等がありました。

「地域の産業として林業をしつかりと立て直していくには伐期を迎えている木は伐るということで、皆伐、主伐をやりやすくするよう

な考え方を国有林の経営の中にひとつ取り入れてほし

い。」 「人工林が伐期を迎えつつある中、林業従事者の減少や高齢化が進んでいる。今後、主伐後の再造林・保育作業を進めていく上で、必要な労働力を確保するこ

とが困難となり、資源はあれど伐採できないという状況になってしまふことを懸念している。」

「薪ストーブは、軽量で扱いやすく、安価であれば普及すると思っている。国産でそういうかたちでの開発ができれば、国・県・市町村でも購入に関しての一定の補助金・交付金の検討

ができると思う。」

このような意見・提言等について、熱心な意見交換

が行われました。四国森林管理局としても、これらを踏まえ、より一層公益重視、民国連携を推進し、「国民の森林」として相応しい国有林の管理経営に取り組んでいきます。



連絡協議会の様子

保護林観察ツアーを開催

「可愛らしいヤッコソウ」に感動

〈技術普及課〉



一月八日、一般公募に

よる二九名の参加者とともに

高知県土佐清水市の佐田

山保護林観察ツアーを行いました。

ました。



可愛らしいヤッコソウ

今回は、林木遺産資源保

存林として保護管理を行っ

ている佐田山を歩きなが

ら、自然の営みを紹介しま

した。また、平成二八年か

ら八月一日が「山の日」

として国民の祝日に加わる

ということを記念して、四

国仰山会との共催により、

国民の皆さまが、森林に親

しみ、自然と触れ合うこと

で、森林に対する理解を深

めていただけるように開催

したものです。

参加者は、樹齢一四〇年

を超える巨木のシイやアカ

ガシに時の流れを感じとつ

ていました。また、なによ

り、シイの根に寄生する

「ヤッコソウ」を初めて見

る人が多く、あちらこちら

でまるで出迎えてくれてい

るかのように顔を出してい

る小さな「やっこさん」を

見つけては「本当に人の形

に見えてかわいい」「思っ

たよりきれいな色」などの

歓声が上がリ、その愛らし

い姿に感嘆していました。

登山コースの高低差もあ

まりなく、山頂からは、太

平洋の広く青い雄大な水平

線を眺めることができました。

た。

登山中には、平安時代初

期に白皇山真言修験寺とし

て創建された白皇寺跡の見

学や昔を偲ぶ炭窯を復元し

ている地元の方から当時の

暮らしの話を聞いたり、山

頂付近にある石鎚神社に参

拝に来られていた方にホラ

貝を吹いていただいたり

と、主催者も予定していな

かったサプライズがあり、

参加された方

に、古の雰囲気

も味わっていた

だくことが出来

ました。

また、巨木だ

けでなく、林内

に点在する巨石

からもパワーを

もらいながら、

ゆっくり散策を

楽しんでもらえ

ました。

登山の後、せっかく足摺

まで来たのだからと、岬で

昼食をとり、白山洞門の見

学や、金剛福寺を参拝する

など、短い時間ではありま

したが思い思いに過ごすこ

とが出来、大変有意義な一

日となりました。



保護林ツアー参加者の皆様

森林鉄道遺産の見学(軌道敷)



森林ふれあい推進事業

く千本山と森林鉄道遺産を訪ねてく

〈技術普及課〉



一月二日、高知県馬路村において、「山の日制定記念 魚梁瀬千本山と森林鉄道遺産を訪ねるツアー」を公募による二一名

の参加を得て、開催しました。当日は、「馬路村公認むらの案内人クラブ」の清岡さんに案内していただきました。

参加者は、バスの中で「芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」が作成したビデオを見て、事前に森林鉄道の歴史について学びながら、最初の目的地に向かいました。

安田川沿いの森林鉄道遺産の明神口橋とオオムカエ隧道では、バスから降りて先達の施工技術などについてむらの案内人清岡さんより詳しい説明を受け、建設に携わった人々の苦労や森林鉄道が走っていた時代の村の繁栄が偲ばれました。

その後、五味隧道と魚梁瀬ダム展望台でも説明を聞きながら見学しました。それぞれの目的地に向かう車中でも、案内人からユーモアを交えて、馬路村の今昔や、森林・林業の歴史など、大変貴重なお話を聞いていただき、丁度見頃を迎えた紅葉も相まって、笑い絶えず、退屈する間もなく移動ができました。

参加者は、バスの中で「芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」が作成したビデオを見て、事前に森林鉄道の歴史について学びながら、最初の目的地に向かいました。

安田川沿いの森林鉄道遺産の明神口橋とオオムカエ隧道では、バスから降りて先達の施工技術などについてむらの案内人清岡さんより詳しい説明を受け、建設に携わった人々の苦労や森林鉄道が走っていた時代の村の繁栄が偲ばれました。

その後、五味隧道と魚梁瀬ダム展望台でも説明を聞きながら見学しました。それぞれの目的地に向かう車中でも、案内人からユーモアを交えて、馬路村の今昔や、森林・林業の歴史など、大変貴重なお話を聞いていただき、丁度見頃を迎えた紅葉も相まって、笑い絶えず、退屈する間もなく移動ができました。

魚梁瀬の丸山公園では、復元された森林鉄道に体験乗車し、童心に帰るとともにヤナセスギ(千本山林木遺伝資源保存林)に

ヤナセスギ(千本山林木遺伝資源保存林)



れた「千本山橋の大杉」に迎えられ、標高九〇〇mの展望台を目指しました。天候にも恵まれ、展望台まで無事登ることができました。樹齢二〇〇年〜三〇〇年のヤナセスギ美林とのふれあいでパワーをもらって皆さんには、満足していただけたようでした。



ジージーゼミ作製中、うまく作れるかな？

木工教室はあまり経験がなく、不安もありましたが、先生方の協力も得て、無事、皆さんに満足していただけたのではないかと考えています。今回は、木で作ったおもちゃ

ら、年長児は、自分で「ジージーゼミ」や「ケロケロカエル」を作り、年中・年少児には、まだ、ハサミを使うことが難しいため、事前に準備した完成品をプレゼントしました。わずか、二時間程度でしたが、約一三〇名の園児がひっきりなしにビンゴゲームに挑戦してくれました。中には、ビンゴゲーム

解できず立ちすくむ子、三つの列の穴にすんなり入れてしまう子（無欲の成せる業でしょうか）、「面白かった。」と言って何度も挑戦する子と、かわいい笑顔に、慌ただしい気持ちもすっかり癒やされました。

ある私立清和幼稚園からの依頼を受け、親子で行う木工教室を開催しました。

まず、二台のビンゴゲームで遊び、ビンゴになった



で遊び、「木の温もり」を感じてもらうことを念頭に、ビンゴゲーム・パズル・コマ・けん玉など七種類二〇台を用意して親子でそれぞれ楽しんでもらいました。



パズル遊び、うまく出来るかな？

たくさんのおもちゃによって、親子で木の温もりや良さを感じてもらったり、と同時に、楽しい時間を過ごしていただけたと思っています

幼稚園で木工教室を開催

親子で木の温もりを体感

〈技術普及課〉

各地のたより



ブナ林での森林浴

地域のイベントに「役 ふれあい推進センター」



国の森林等をフィールドとして、四国の森づくり活動に積極的に取り組んでいる団体に贈られる「四国山の日賞」に選ばれた六団体を紹介するパネル展示も行いました。

メイン会場では、地元奥屋内の「お菊の滝」の言い伝えにまつわる「播州皿屋敷伝説」の紙芝居上演。「黒尊むら市」には、地元の食材を使った炊き込みご飯、山菜おこわ、猪汁、鮎の塩焼きなどの地域の料理が沢山並び、来場された方は流域の料理を食べたり、「神殿橋」周辺等の紅葉を見て、黒尊溪谷の自然を満喫されたようです。

十一月九日、地元の高知県四万十市西土佐江川崎で西土佐地域の秋の味覚を集めた「第三回四万十うまいもの商店街」が開催されました。当センターも木工

地域イベントで 木工クラフト 「黒尊むらまつり」 ふれあい推進センター

「黒尊むらまつり」が開催され、天気も良く、多くの方が黒尊溪谷の紅葉と流域の料理を堪能しました。

十一月五日、高知県

四万十市西土佐黒尊の黒尊親水公園で「黒尊むらまつり



と「四万十くろそん会議」の主催で、同会議の構成員である当センターは「作って遊ぼう」コーナーと「八面山山登り」を担当しました。

このコーナー周辺には、新たに国民の祝日として平成二八年から八月一日が「山の日」に制定されことから、「山の日制定記念」をPRする「のぼり旗」を建てて、来場者に広く知ってもらいました。また、四



「山の日制定記念」のぼり旗や「四国山の日賞」のパネル展示

「作って遊ぼう」コーナーでは、沢山の来場者で賑わい、サクラやミズメ等の小枝を使用したクマのストラップ作りを体験してもらい「八面山山登り」では、

このコーナー周辺には、新たに国民の祝日として平成二八年から八月一日が「山の日」に制定されこ

焼きなどの地域の料理が沢



クマのストラップ作り
皆さん夢中です

験コーナーを出店し大盛況となりました。

このイベントは、西土佐

ふるさと市組合の主催で、同地域に「道の駅」が開業する二〇一五年を前に、西土佐を中心とした四万十川流域の地域グルメをPRしようとするもので今回で三回目の取組みです。

当日は、朝から生憎の雨模様でしたが、昼前頃からは小雨となり、地元産品等を使った飲食販売や各種催し物が予定どおり行われ、人々の笑い声や歓声が各会場から絶えず聞こえていました。当センターの木工体験コーナーでのクマのストラップづくり等は、小学生

の仲良しグループや親子連れが沢山訪れ「かわいい」と大人気でした。

天候に少し、恵まれませんでした。地域との結びつきを深めるとともに、木の温もりを伝えられた秋の一日となりました。



十一月七日、愛媛県松野町立松野西小学校の四年生二一名を対象に、今年度五回目の森林教室（炭焼き体験）を行いました。

始めに、スライドを使い炭の種類や利用法を説明

白炭の音色を楽しむ



し、白炭と黒炭の堅さの実験をしました。ノコギリを使用した炭の切断では、黒炭は簡単に切れるのに対し、白炭は堅くてなかなか切れず、その違いに驚いていました。また、白炭を木の棒でたたいて、「チンチン」と鉄琴のような綺麗な音色を楽しみました。

続いて、炭焼き体験。児童達は、職員から手順や注

意点を聞き、ブリキ缶の中に、もみ殻とマツボックリやドングリ、折り鶴など自分達で作った物を詰めて、ドラム缶のたき火の中へ並べました。

また、アルミホイルに包んだサツマイモが炭になるかについての実験もしました。たき火に入れて、約三〇分たった頃、ブリキ缶から出る煙の色が透明になる一方で、児童達はアルミホイルの中身が気になる様子でした。

どちらもたき火の中から取り出し、ブリキ缶が冷めるのを待つ間にアルミホイルを開けると、サツマイモは皮の表面だけが黒く焼け、残念ながら炭にはなり

ませんでした。焼き芋となり、みんなで美味しく食べました。

焼き芋を食べ終わる頃に、冷えた缶を開けると、折り鶴やドングリ、マツボックリなどはちゃんと炭になっていました。

児童達は折り鶴等が燃えることなく「炭」になっていることに、とても喜んでくれました。



気になるアルミホイルの中身

「小筑紫小学校」



キオンの花が咲きアサギマダラが羽を休め、秋の装いを見せている八面山に、一〇月二四日、高知県宿毛市立小筑紫小学校五年生二〇名、一〇月三〇日、四万十市立利岡小学校三



「利岡小学校」



六年生二六名、一〇月三一日、四万十市立西土佐小学校五年生二四名、一一日、愛媛県松野西小学校四年生二一名を迎え森林体験学習を行いました。準備運動の後、登山口を出発し、歩道沿いの樹木やニホンジカの被害などを学習しながら、約五〇分で八面山山頂(一、一六五m)に到着しました。

「西土佐小学校」



山頂では、遠くに見える三本杭(滑床山一、二六六m)が、土佐藩と宇和島藩と吉田藩とがそれぞれの領地の境として杭を立てたことから「三本杭」と呼ばれるようになったことを話すと、驚いていました。その後、近くのブナ林へ移動して、職員が、森林の持つ様々な働きを説明した後、ネイチャーゲーム「カ

「松野西小学校」



モフラージュ」と「フィードビンゴ」を楽しみました。この森林教室で実際に木や土に触れたり落ち葉を踏みしめる体感を通して、森林への興味や関心を持つなど、学習の一助になれたものと実感しています。



不法投棄物の回収作業



回収したゴミは、エアコン、洗濯機、タイヤといった大型のものから、ペットボトルや空き缶など大小様々なものがありました。

九月三日に愛媛県久万高原町の行長山国有林、そして一月七日には砥部町の大谷山国有林において、林内に不法投棄されていたゴミの回収作業を愛媛署職員が行いました。



ゴミの分別作業

作業はゴミの中に溜まった泥水で、全身が汚れてし

作業完了後の職員



まいました。大量のゴミの山ができた驚きと、自分たちの手によって、きれいになった現場に達成感をいだくことができました。

作業は、回収されたゴミをバックにしての記念撮影で終了し、大量の不法投棄物への呆れた気持ちはあつたものの、職員一同爽やか

な気持ちで終わることができました。

当署では、この他にも不法投棄物が多いと見られる国有林が何か所かあり、職員によるこのような活動を展開することによって、地元への貢献につながればと考えています。

なお、今回の回収ゴミの処理については、地元の市町の協力を得て、市町指定の処理場へ持ち込んで処理してもらえた箇所と、市町の協力が得られなかったため地元業者に処理を委託せざるを得なかった箇所がありました。限られた予算の中ということもあります

が、地域環境のための善意ある活動として、地元の理

解・協力が得られるものにしていければと思っ



一月二六日、当署主催で、国有林の生産現場をフィールドに集材架線作業における安全確保に関する現地検討会を開催しました。

今年度、当署では、請負事業等による災害が既に六件発生しており、特に生産請負事業において、架線撤収中に高所から転落するという重大災害に準ずる災害

集材架線現地検討会



が発生しています。こうしたことから、集材架線設備や集材作業における安全確保のための留意点について、実際に架線集材を行っている現場で検討会を実施したものです。

当日は、国有林の生産請負事業を実施している林業事業体を中心に高知県幡多林業事務所、民有林事業実



地球温暖化防止等の観点から、今後は、間伐に加え主伐・再造林を推進していく必要性が求められるなか、十一月二六日、高知県

現地検討会



仁淀川町若山谷口両平山国有林二八七ろ林小班で、コンテナ苗植栽現地検討会を開催しました。

当事業地は、本年度請負生産による複層更新伐を予定しており、現在、伐採と路網による木材搬出を実行中の箇所です。その更新箇所の一部に当

署では、初めてコンテナ苗を植栽することとしたので、近隣のいの町役場及び仁淀川町役場の林業関係職員並びに高知中央森林組合及び仁淀川森林組合の職員、当署職員、併せて三五名の参加により実施しました。

まず、森林技術・支援センター池本所長よりコンテナ苗の特徴について説明をした後、専用の植栽用器具を使い、参加者の皆さんにも実際に植栽して頂きました。最初はなれない器具のため、戸惑いもあるように見えました。すぐに使いこなせるようになり、「鋏と違い、腰が楽だ」「早く植える事が出来る」など好

評でした。

その後の意見交換では、「ヒノキのコンテナ苗の生産状況はどうか」、「まだ、コンテナ苗の生産者が少なく生産の拡大が課題でもあり、設備や支援が必要」等の意見がありました。

行政や地域の林業に携わる関係者が造林事業の低コ



コンテナ苗専用の植栽用器具を使い植栽している様子



天然スギ巨木を見上げている児童

スト化に向け意見交換や情報
報の共有ができ、貴重な一
日となりました。



立佐喜浜小学校三・四年生
一四名、保護者二名、教員
三名を対象に、森林教室を
実施しました。

この森林教室は、地域の
自然や産業、文化について、
人々と関わり合いながら体
験的に学び、地域に愛情を
持つて生きて行こうとする

一二月二日、高知県
室戸市佐喜浜「佐喜浜躍動
天然杉郷土の森」(段ノ谷
山国有林)において室戸市

樹・巨木が群生しており、
段ノ谷山は、天然杉の巨

その中で特徴的な天然杉
三三本に「大魔王杉」「火
炎杉」「ゾウ杉」「たこ八
杉」など、形から想像した

ユニークな名前がつけられ
たり、また、室戸世界ジオ
パークサイトの一つにも指
定されています。

登山は二班に分かれ、当
署が作成した「段ノ谷山天
然杉ガイドマップ」「樹木

の話」を活用しながら、樹
木の見分け方や特徴、天然
杉の名前の由来、人工林と

天然杉の違いなどを説明し
ながら登っていきました。
生徒には事前に資料を渡し
学習してもらっていました
が、実際に見る天然杉は想
像以上だったようで、「大

きい。何メートルくらいあ

熱心にメモを取る児童
(森林の働きについての説明)



るの」「どうしてこんな変
わった形になるの」など歓
声をあげながら見入ってい
ました。

また、広場において「森
林の働き」についての説明
を行った際には、熱心にメ
モを取り、「魚梁瀬スギと
の違いは何ですか」「段ノ

谷山には何種類の樹木があ

りますか」「天然杉の中で
一番樹高が高い木はどれで
すか」等たくさん質問が
できました。中にはすぐに返
答できない質問もありまし
たが、森林についてとても
興味を持っていました。

下山後、生徒に感想を聞
いたところ、口々に「楽
しかった」と笑顔で答えて
くれて、森林の中で学びな
がら自然とふれあうことの
楽しさを実感したよう
でした。今後も段ノ谷山の
フィールドを活用した取組
みを継続的に実施し、森林
の大切さや役割、地域の自
然などについて、普及啓発
に取り組んでいきたいと思
います。